

ネットワーク

## KITA-NET Network

北海道に広げていこう、環境のネットワーク



## きたネット賛助会員／北海道の環境活動を支援する企業・団体

網走市廃棄物処理協同組合 / エムフォトワークス株式会社 / カサシマ建設株式会社 / 五島冷熱株式会社 / 小南印刷株式会社 / 株式会社櫻井千田  
公益財団法人知床自然大学設立財団 / 親切会北海道支部 / 株式会社地域環境計画北海道支社 / DCMホームマック株式会社  
バタゴニア札幌北・バタゴニアアウトレット札幌南 / 株式会社プリプレス・センター / 株式会社古山商店 / 北海道自動車処理協同組合  
一般財団法人前田一歩園財団 / 雪印種苗株式会社

2015年度のきたネットの活動にご寄付・ご協賛をいただいた企業・団体のみなさまです。ありがとうございました。

DCMホームマック株式会社 / マイクライメイトジャパン株式会社 / KDDI株式会社 / 公益財団法人日本賃貸住宅管理協会北海道ブロック  
公益社団法人全国賃貸住宅経営者協会北海道支部 / 全国賃貸管理ビジネス協会北海道支部 / 株式会社北翔 / 北日本測地株式会社  
一般社団法人札幌空調衛生工事業協会 / 株式会社櫻井千田 / 株式会社ドーコン / 山本建設株式会社 / 石上車輛株式会社 / 有限会社道環  
株式会社網走衛生センター / 川正染工株式会社 / 札建工業株式会社 / 北海道中央バスグループ / 三井住友海上火災保険株式会社  
株式会社リロケーションサービス / 株式会社江上 / 株式会社オール / 株式会社ファズ / 株式会社セクト / 有限会社ドルフ  
株式会社宅建 / 伊丹車輛株式会社北広島支店 / 丸利伊丹車輛株式会社 / 親切会北海道支部 / 草野英美子 / 加納尚明

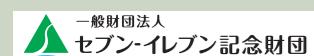
## 【認定NPO法人 北海道市民環境ネットワーク事務局】

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8 愛生館ビル5F

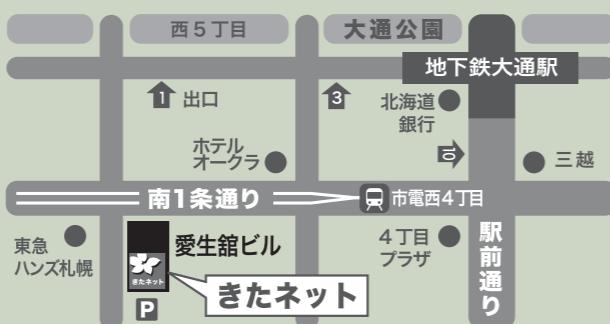
Tel 011-215-0148

Fax 011-215-0149

E-mail office@kitanet.org



きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。



# KITA-NET NEWS 2015/11

きたネットWeb <http://www.kitanet.org/>ラブアース・クリーンアップin北海道 <http://www.love-earth-hokkaido.jp>森づくりナビ★北海道 <http://kitanet-mori.com>環境情報Blog <http://blog.goo.ne.jp/kitanet-staff>きたネットFacebook <https://www.facebook.com/kitanet.org>

## 「きたネット」

北海道の環境保全活動を推進・支援する  
団体・個人・企業が参加するネットワークです。

## きたネットニュース

# MESSAGE

秋は環境団体のイベントシーズン。きたネットも、白老・札幌での森づくり、市民活動助成セミナーなどの行事がメジロ押しでした。今年は9月にラブアース・クリーンアップin北海道の活動として「インターナショナルごみ拾いビーチウォーク」を初開催。中国、フィリピン、韓国、アメリカ、ロシアなどの国の方といっしょに、石狩浜で約1000kgのごみを拾いました。11月のきたネットフォーラムが終わると冬支度です。



きたネットの設立後、2期目から役員を引き受けけて10年以上。設立間もない頃は、共通認識を作ることに時間を費やしていました。中間支援組織の役割は何か、会員サービスとして何ができるのか、目指す方向はどこか…。

きたネットは、設立からセブン-イレブン記念財団との協定で事業を進めており、北海道環境活動交流フォーラム（旧・全道交流会）、助成セミナー、全道一斉ごみ拾い活動等を実施しています。全道交流会は、顔と顔の見える関係づくりとして6年間開催しました。活動実績のある会員団体にコーディネートをお願いし、下川、帯広、札幌、美幌、白老、黒松内と全道各地を回り、開催地ごとの特色あるテーマで実施し、きたネットの礎ができました。会員同士のつながりや人材を発掘する機会に役立ちました。顔が見える取り組みは、会員の活動を学べる場として、ネットワークを作る場として重要でした。現在は、きたネットフォーラムを開催し、一般の方も参加しやすいようなテーマで、北海道の自然の豊かさや最新の環境保全情報を学び合う場を提供しています。

スタート時から取り組んだ、全道一斉ごみ拾い活動は、ラブアース・クリーンアップin北海道の名称が親しみやすく、きたネットの知名度を上げることに役立ちました。全道各地で定着した活動となり、参加者は5万人規模になっています。ごみ拾い活動は、自治会や学校、企業の社会貢献活動として広く行われています。

## INFORMATION



今年は持続可能な地域・暮らしを環境団体の視点から考えます。キーワードは「トランジション」(移行)です。コーディネーターは余市町を拠点にエコビレッジづくりに取組む坂本純科さん。基調講演は、神奈川県相模原市で「トランジション藤野」の活動に関わり、コレクティブハウス「里山長屋」の設計者である山田貴宏さん。人と環境をつなぐプラットホームとしての住、暮らしについてお話をうがいます。午後は、北海道各地で、地域づくりに取組む団体の事例から、環境団体の役割、地域との連携のあり方を考え、持続可能な地域づくりを実現する手法をディスカッションします。

【日時】2015年11月7日(土)10:00 ~ 17:10(9:30受付開始)  
【会場】北海道大学フード&メディカルインベーション国際拠点  
詳細はきたネットのHPでご確認ください。

## きたネットニュース

## ラブアースの森づくり ~ごみ拾い活動からつづく 環境活動 [札幌]



2009年から4年間に植樹した樹木はハルニレやイヌエンジュ、ヤマグワ等、約1500本。自然生態の復元と創造のために、風土にあった樹種を選び、地植えし、防風にドロノキを周囲に植えるという手法を取り入れ、豊かな広葉樹の森にするため植樹しました。現在は樹木がより良い環境で成長できるように、下草刈りや枝打ち等、育樹活動に取り組んでいます。10年後、100年後、札幌を代表する森に育ってほしいと思っています。



**■2015年度作業内容**  
5月～7月：下草刈り(のべ43名)  
10月：下枝払い・除伐(17名)  
共催：NPO法人森林遊びサポートセンター

※札幌市とNPO法人森林遊びサポートセンターとの三者協定により、茨戸川緑地公園でさっぽろふるさとの森づくりを実施中。

## [白老]



2006年から5年間、カミネッコン(段ボール植樹枠)を使用し、北ぐにの森づくりサークルの指導のもと、森林再生のための植樹を行いました。植樹地は、周辺の森のカラマツやシラカバなどの種が飛んできて苗が育ち、植樹した樹木の隙間を埋め、大変混んだ状態になって、今はそれらの除間伐を中心にして森づくりをすすめています。森の手入れのために木を倒すと、その豪快さに圧倒され、命の尊さを感じます。森づくりは樹木を観察し、見極めて育てることが大事であることを学んでいます。



**■2015年度作業内容**  
10月10日：枝打ち・除間伐(31名)  
共催：NPO法人ウヨロ環境トラスト

※作業の後のをお楽しみは、森でのバーベキューと、ウヨロ川フットパスウォーキングでの自然観察、今もたくさんの方が参加してくださいました。



## 「きたネット発 市民活動助成セミナー2015」 9助成団体の参加で開催 (10/18)

今年で10年目の助成セミナーを札幌市のなかで2.7で開催しました。第一部は「活動基盤強化セミナー」。きたネット会員団体の「認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト」副理事長の瓜田勝也さんを講師に、企業や地域、会員との関係づくりにポイントをあててお話しいただきました。同トラストは1986年から、霧多布湿原の環境保全と自然と共生する暮らしづくりに取組んでいます。道内外に2157個人・115法人の会員、さらにタカナシ乳業(株)やキューピー(株)、(一財)セブン-イレブン記念財団など11企業・団体が、寄付やキャンペーンなどの形で活動に協賛しています(2015年7月現在)。設立以来19年間の会員は延べ4000名、うち7割は同湿原を訪れた人たち。実験した人が知人や勤務先に魅力を伝えて入会を呼びかけ、企業が企業を紹介して、支援が広がっていました。支援者との関係づくりのポイントは(1)団体の活動を体感できる仕組みをつくる(2)賛同しやすい仕組み=開発反対ではなく、活動のファンを増やす「この指とまれ」を心がける(3)1人の1億円ではなく、1億人の1円=会費は年間1000円と低額、高額資金が必要な時は別途寄付をお願いする(4)会員同士の交流行事を行う、と話してくれました。

第二部は市民活動を対象にした助成団体の担当者に、制度の特徴や申請のポイントなどをお話しいただきました。「水辺の活動支援のイメージが強いが、こんな活動も支援している」「助成とは違う支援方法を提案できるケースもある」「対象外と思いつまず相談してほしい」と参加者に呼びかける場面もありました。

第三部は「個別相談会」。参加者は活動資料や事業計画書などを手に、複数の団体ブースを訪れて、熱心に質問をしていました。参加者からは「活動に適した申請分野を教えてもらった。早速申請します」といった声が寄せられました。

**■主催：認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク  
一般財団法人セブン-イレブン記念財団**

※第一部と第二部の録画を、インターネットで配信予定です。詳細はHPでご覧ください。



当日の配布資料  
ご希望の方は  
お問合せください

## きたネット会員 KITA-NET MEMBERS



## NPO法人北海道エコビレッジ 推進プロジェクト

### 持続可能な暮らしと地域モデルをめざして

持続可能(サスティナビリティ)は現代のキーワードです。具体的なイメージを共有する前に「理想論」「江戸時代に戻るのか」という声も聞こえてきそうな曖昧なこの言葉。その絵をみんなでポジティブに描きたい、「エコビレッジ」の考え方や実践例にはそのヒントがあると考え、2009年から農的暮らしやエコロジカルな住まいの技術など様々な学びのプログラムを提供してきました。初めは都市住民向けのプログラムが中心でしたが、2012年に余市町に拠点を構えてからは、より地域に根ざした活動を展開しています。フットパスツアーやスイーツコンテストなどを通じて地域住民と共に地域のよさを発信したり、子ども農村体験の受け皿をつくりながら多様な地元ネットワークを築いているところです。2014年の研修棟建設では幅広い専門家や企業とのコラボレーションも生まれました。持続可能な社会の実現には環境テクノロジーも大切ですが、多世代異分野の交流が不可欠だと実感しています。私たちの取り組みがひとつのモデルとなり、都市での実践者や農村に新しい働き方を求める人が増え、互いに楽しくつながっていく未来を提案したいと思います。

**[電話]0135-22-6666(余市事務所)、090-1303-6485(坂本)**  
**[HP]http://ecovillage.greenwebs.net/**

きたネットチョイス

## KITA-NET CHOICE

## Book

「環境中間支援会議・北海道」の本



「環境☆ナビ北海道」<http://enavi-hokkaido.net/>

## Event

きたネット主・共催イベントです。  
詳細はお問い合わせください

### 「もうひとつの北海道環境白書2」好評発売中です。

きたネットは、環境中間支援組織のコンソーシアム「環境中間支援会議・北海道」に参加しています。環境省北海道環境パートナーシップオフィス、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ(指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)と、きたネットの4組織が連携して、環境活動を支援するために、より効率的に役立つ組織を目指し設立しました。官設置の組織と民間団体が、それぞれ連携を事業計画に組み込み、運営費を出し合う、全国でも他にはない組織です。2008年の準備会議から7年、北海道の環境活動のポータルサイト「環境☆ナビ北海道」の運営や、セミナー等の共同開催、サービス向上のための内部勉強会も行っています。また、北海道大学大学院環境科学院との連携で、北海道の環境活動のパイオニアの歩みをインタビューとデータで紹介する「もうひとつの北海道環境白書2012」を発行(販売終了)。2014年には、多様なフィールドで挑戦する方々のヒューマンストーリーを通じて、北海道が歩むべき道、持続可能な社会の実現に向けた道筋を考える「もうひとつの北海道環境白書2」を作成、発行しました。ぜひ手に取ってご覧ください。

**[編集・発行] 環境中間支援会議・北海道×北海道大学大学院環境科学院**  
**[価格] 1,200円+税 A5版176ページ、フルカラー [お問い合わせ]きたネット事務局**

- ・11/4(水)20:00～きたネットラジオカフェ(札幌のコミュニティFM ラジオカロスで隔月放送 <http://www.radiokaros.com/>)
- ・11/6(金)～11/8(日)テッラ・マードレ北海道 札幌大会(11/7はきたネットフォーラムと同日開催)  
会場：札幌市 北海道大学FMI国際拠点他
- ・11月下旬～12月(予定)森林・山村多面的機能發揮対策交付金事業説明&活動報告会 旭川・帯広・北見で開催 詳細はHPで。